

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

障害のある子どもたちが、安心して通える学校づくりを

大阪の障害児教育を よくする会 対府交渉

10月26日、大阪の障害児教育をよくする会「よくする会」の対府交渉が大阪赤十字会館で実施され、33人が参加しました。交渉では、府内4地域に続く学校建設計画の策定、子どもたちの福祉圏域や生活圏域を守った通学区の策定、交野支援学校四條畷校の施設設備改修、移管が強行された旧大阪市立特別支援学校の教育条件問題などについて、障害児学校・学級の父母らが教育条件整備を求めて訴えました。主なやりとりについてお知らせします。

1 新たな学校建設計画の策定



参加者代表による要望書の提出

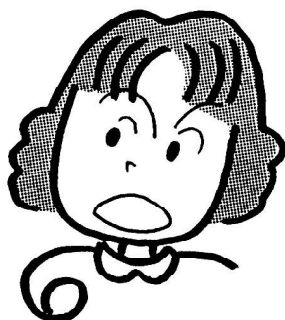
北河内地域の保護者が、開校して2年目の枚方支援が早くも教室不足となり、子どもがクールダウンするスペースも無い実態を訴えました。八尾支援の保護者は、西浦支援が開校しても今年度の在籍数は371人で、ずっとこのまま過大・過密で行くのかという不安が常にあると述べ、東大阪市への知的障害支援学校建設の必要性を訴えました。佐野支援の保護者も、小学部から19人が進級し、地域

の学校から27人が入学して46人となった中学部1年生の状況を示し、今後高等部においても生徒数の増加が考えられると述べました。そして、岸和田・貝塚地域での新校建設も含め、適正規模の落ち着いた学習環境の整備、小中一貫教育が保障されるような学校にできるよう求めました。

2 通学区区域割は、福祉圏域・生活圏域を守って

また、肢体不自由児の遠距離通学による負担を解消するために、肢体障害のある子どもが安心して学べる小・中・高等部のある支援学校を建設して欲しいと、北河内地域の保護者が訴えました。府教委は回答で、今年度、大阪市立特別支援学校12校を大阪府に移管したことに伴い、大阪府域を含む府内全域の支援学校における知的障がい児童生徒数の推計を行っているところである。推計の結果をふまえ、今後のあり方を検討していく、などと述べました。しかし、新たな推計値の公表時期や方法については明言しませんでした。肢体不自由校建設についても、現在の通学区区域割で対応可能と考えているとして、現在のところ建設計画はないとしました。

八尾支援の保護者は、同じ八尾支援に通っている、八尾支援の高等部まで通える子ども通えない子がいるというのとはとても不平等だと訴えました。佐野支援の保護者も、熊取町・泉佐野市在住の子どもが、高等部で泉南支援に行かねばならないことについて、環境の変化が苦手な子どもたちにとって、とても重要な問題だと述べました。通学区区域割の問題点を指摘する意見は、この他にも数多く出され、当事者の事情を考慮するなど運用面での柔軟な対応を求め、声があがりました。しかし、府教委は、市町村教育委員会や学校の意見をつかがないながら、施設規模や通学バス乗車時間等を考慮し、毎年、府教育庁が定めていると回答し、「通学区区域割についての個別の対応は難しい」と述べました。



(裏面に続く)

府障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/>

Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



10月27日、軍縮問題を扱う国連総会第1委員会は、核兵器禁止条約などを交渉する国際会議を来年開くとした決議案、核兵器廃絶の多国間交渉の前進を採択しました。この決議案は、オーストリアなど57カ国が共同提案したもので、国連加盟国の6割を超える123カ国が賛成、反対38カ国、棄権16カ国でした。決議案には、核兵器を禁止しその全面廃絶につながるような法的拘束力のある法文書を交渉するため、2017年に国連の会議を招集する」と明記されています。会議は、3月27日(31日)と6月15日(7月7日)にニューヨークで開くとされ、この日程は、年内に国連総会の本会議でも採択される見込みです。この決議案の採択により、核兵器の違法化への道が開かれ、核兵器のない世界へ国際社会は画期的な一歩を踏み出したと言えるでしょう。被爆者をはじめとした核廃絶を求める世論と運動の大きな成果です。しかし、核保有国は決議案不採択に向けて画策しました。米国は同盟国に対し、棄権ではなく反対するよう求める書簡を配布したと報じられています。特に日本は被爆国であるにもかかわらず、決議案に反対しました。日本政府代表は、核保有国と非保有国の建設的な協力を通じた実際の具体的な措置が唯一の効果的方法」という分りにくい主張を展開し、核兵器禁止条約の交渉を求めなかったのです。日本被団協の田中事務局長は、米国を説得するぐらいのことはやって当然、こんな政府には、唯一の被爆国という言葉すら口にして欲しくありません」と述べています。

(表面より続く)

3 四條畷校の独立校化と施設設備改修

四條畷校の独立校としての位置付けについて府教委は「府全体の今後の児童生徒数の動向を見渡したところ、平成27年度に完了した新校整備によっても、なお対応が必要な状況であることをふまえ、当面継続することとした」との回答を繰り返しました。施設設備改修については、より一層の安全性の確保と利便性の向上をはかるため、平成29年1月から使用箇所を1・2階とすべく、内部改修工事を実施する予定である」との回答でした。

四條畷校の保護者は、今通っている子どもにとっては利便性がほとんど無いと述べ、「本当に欲しいことを何もしてもらえない」「などと府教委の姿勢を強く批判しました。

4 正規の学校職員としての看護師配置

堺支援の保護者が、医療的ケアを必要とする子どもの割合が増加していることを指摘し、教員の定数内で看護師配置を続けることは、実質的な

全生徒への教育の低下につながる恐れがある」とどと訴えました。

府教委は、今年度から、放課後の業務や泊を伴う行事にも対応することができるとして、臨時技師(看護師)を配置した。また、昨年度より国の教育支援体制整備事業補助金を活用し、1日7時間勤務する看護師を1校に配置している。今後とも標準法定数で看護師を配置するよう、引き続き国に要望していく」との回答を行いました。

あいさつする黒崎会長



5 障害児学級在籍者を含めると、定数を超える通常学級をなくすための施策

大東市の小学校の保護者が今年2年生のわが子の学年について、83人の在籍者のうち9人が支援学級に在籍しているため、3年生からは今の3クラスから40人・41人の2クラス編制となる実態を示しました。その上で、今でさえわが子は「先生忙しそうで話かけられへん」と嘆いているのに、さらにクラスの人が増えれば、学力が向上しないばかりか、いじめ・不登校・学級崩壊の問題は増える一方だ」と訴えました。

府教委は、加配措置を含めた人的支援等について国に強く要望するとともに、引き続き障害種別による支援学級の設置を促進し、障害のある児童生徒へのきめ細やかな指導・支援の充実に努めていく」との回答にとどまりました。

6 旧大阪市立特別支援学校の教育条件問題

現場の教職員から、図書購入のための費用が大阪市立の時は50万円だったのに比べ、府立になってからは一律9万円となるなど、学校予算削減の実態が紹介されました。また大阪北視覚支援の保護者は、7月から寄宿舎を利用できなくなり、毎朝スクールバス停まで電車を利用し、長時間かけて送迎せざるを得なくなったと訴えました。

府教委の回答は、「移管後の教育内容や教育条件は、これまで大きく変わるものではない。府市、それぞれの良いところを継承しつつ、今後も教育活動の充実にとりくんでいく」というものでした。寄宿舎の入舎基準については、移管に伴う変更は無いとし、「今までの利用の方法を本来の形に改めてもらった」と説明しました。

以上の他、学校施設の抜本的改築・改修を求める要望に対して府教委は、「老朽化対策については、府立学校施設整備方針に基づいて平成28年度から平成30年度の3年間で施設の劣化度調査を実施したうえで、順次施設の改修をすすめていく」と回答しました。

交渉の最後にあいさつしたよくなる会」の黒崎会長は、「これからも、子どもたちが安心して通える学校づくりのため、尽力いただけるようお願いしたい」と訴えました。

平和を考える機会となった：女性部夏の学習会

大阪国際平和ミュージアム「ピース大阪」を訪れて...

昨年の夏の学習会では、立命館大学の国際平和ミュージアムを訪れました。さらに、今年の女性部総会の学習会では、野坂昭如氏の「たこになったおかあさん」というアニメーションを観て平和について考えました。そこで、7月30日に行う今年の夏の学習会は、地元大阪にある「ピース大阪」を改めて見てみようということになりました。

「ピース大阪」は、リニューアルされて、大阪空襲を中心とした展示になっていました。その当時の大阪の人々の暮らしの展示があり、戦時下、人々がどんな思いを持っていたのか、うかがい知ることができました。空襲で焼き尽くされた大阪の様子の写真は、私たちがいつも身近に知っているところと比べることができ、戦争の悲惨さを身近に感じさせられました。

1階の展示室は、実際に焼け跡のおいが漂い、戒橋界隈のジオラマで、空襲の様子を体験しました。その奥には、防空壕が作られており、女性部総会で観たアニメと重なりました。驚いたことに、空襲の中で、原爆を落とす練習をしていたそうです。展示を見た後、ウィークエンドシネマを観ました。映画は、「T M R R W 明日」という昭和20年8月9日の長崎の原爆の話でした。原爆の話といっても、いろいろな明日を夢見て一生懸命生きる人々を淡々と描いている映画です。こんな人々の上に、容赦なく原爆が落とされたと思うと胸がつぶされる思いでした。

参加者の中には、リニューアル前にピース大阪を訪れた方もいて、その時は、アジアの人たちに対する加害者としての立場での展示もあったそうで、そこが無くなったのが残念だという声もありました。

これからも、平和への思いを胸に、女性部のとりくみを大切にしていきたいと思えます。

(女性部 中村敦子)

感想です！

ランチもおいしかったですし、交流もでき、よかったです。映画についてですが、戦争は2度と起こっては行けないとあらためて思いました。

お昼がおいしかった。今年は、昨年よりも人数が多くてよかったです。ピース大阪も、とてもよかったです。いつもは、忙しくてなかなかこんな風に平和について考えることはないけれど、ピース大阪に来て何か思うところはあった。

暴力特に戦争を描いたものが苦手。簡単に人を殺してしまうけど、その人の後ろには、家族や友人などつながる人がいっぱいいるねん！と叫びたくなってしまふでなるべく避けてきたけど、今は、他人事として避けている場合じゃないと強く思った。特に「戦争のために貯金を」のポスターに、今の政府の税金の取り方など連想されて暗澹とした気持ちになった。はあー。

一人ではなかなか行けなかったピース大阪。仕事に追われて、人間らしく考えることを失くしてしまっている日々の中で忘れがちな平和を考える、大切なきっかけとなりました。人を育てる教育のためには平和は不可欠という思いを改めて強く持ちました。この本当に自由で、意義のある学習会にもっとたくさんの人に参加してほしいと思えます。